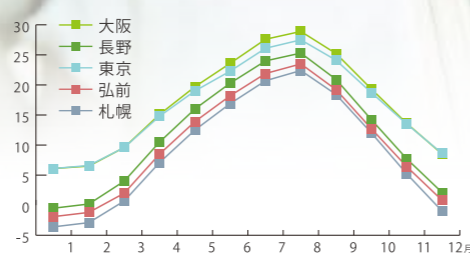


弘前ひろさきについて

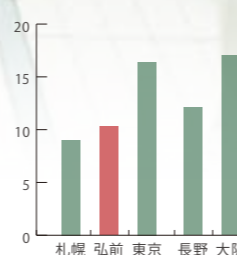
にぎわいのある街には
そこで暮らす人たちが輝き、
笑顔で迎える人たちが
助け合う絆が強く
営みが活気に満ちている。
この街の魅力は
そういった「人」によって支えられ
都会ではなくなりつつある
「豊かさ」が残っている。



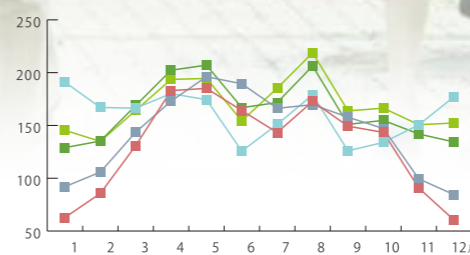
月別平均気温(°C)



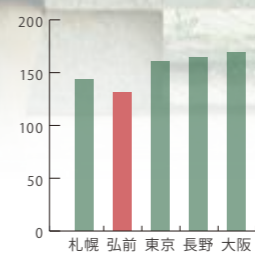
平均気温(°C)



月別平均日照時間(時間)



平均日照時間(時間)



弘前市の概要

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 総面積 | 524.12km ² (H22年) |
| 総人口 | 183,473人(H22年国勢調査) |
| 人口密度 | 350.1人(総面積1km ² H22年国勢調査) |
| 年平均気温 | 10.2°C(H27年) |
| 日照時間 | 年間 1570.9時間(H25年) |
| 降水量 | 年間 1702.0mm(H25年) |

弘前市のあゆみ

弘前市街の西にそびえる岩木山、その麓は一万年の歴史を有する縄文時代の遺跡の宝庫であり、その終わり頃には、大きな環状列石をもつ大森勝山遺跡が営まれます。また、弥生時代には、東日本最北・最古の水田跡である砂沢遺跡も営まれており、弘前の特徴である豊かな精神性と進取の気風が、古来より息づいていることが感じられます。

津軽という地名が、はじめて史料に現れるのは「日本書紀」斉明天皇元年(655)のこと。古代の津軽は、中央政権から蝦夷(えみし)と呼ばれた人々の住み、異質な文化を持つ地であり、その後の中世には、安藤氏という北方世界に大きな影響力を持った豪族を生み出します。時代はくだり、戦国時代。現在の弘前市の礎を築く津軽が信が登壇します。為信は、勢力の拡大と共に大浦城から堀越城へと本拠地を移し、その子、津軽家二代の信成が、慶長16年(1611)に高岡城、のちの弘前城を築城しました。

以来、弘前は明治維新までの260年間、弘前藩の城下町として、津軽地方の政治、経済文化の中心として繁栄してきました。明治4年(1871)、廃藩置県によって「弘前県」となりますが、同年9月、弘前県は青森県と改称され、県庁も弘前から青森へと移されました。明治22年(1889)には、全国30市とともに市制を施行。明治31年(1898)には、第八師団司令部が設置され、軍都として発展しました。大正10年(1921)には、現在の弘前大学の母体となる官立弘前高等学校が開校、さらに礎が築かれました。昭和30、32年に周辺12町村と合併し、平成18年には、旧弘前市・旧岩木町・旧相馬村が新設合併し、「新弘前市」が誕生。津軽地域の中心都市として、発展を続けています。

2-3 弘前について

4-6 移住者インタビュー

- 4 加藤 裕人さん(群馬県出身)
- 5 斎藤 美佳子さん(北海道出身)
- 6 小川 源太さん・亜生さん(北海道・埼玉県 出身)

7-15 弘前ぐらしガイド

- 7 生業
- 8-9 暮らし
- 10-11 子育て・教育
- 12 医療・健康
- 13 食文化
- 14 自然と歴史
- 15 津軽の民俗と祭り

16 弘前ぐらしまでの流れ

Access

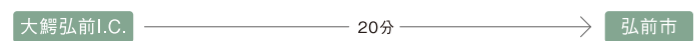
飛行機をご利用の場合



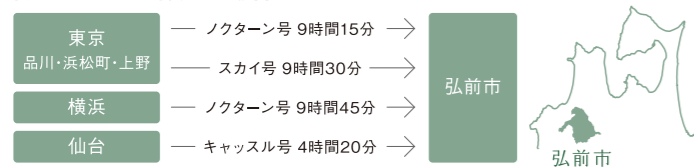
東北新幹線をご利用の場合



東北自動車道をご利用の場合



高速バスをご利用の場合



移住者の顔写真にARアプリをかざすと、インタビュー動画がご覧いただけます。

ARアプリダウンロード方法

